

## V201a すばる望遠鏡・観測提案書管理システム ProMS の変遷と今後の展望

山野井瞳 (国立天文台), 中島康 (一橋大学), すばる共同利用サポートチーム (国立天文台)

国立天文台ハワイ観測所では、毎年春と秋にすばる望遠鏡の観測提案書の公募 (Call for Proposals) を行っている。提案書の申請は、すばる望遠鏡・観測提案書管理システム (Subaru Telescope Proposal Management System; ProMS) を通してオンラインで行うことが可能となっている。Semester 2012A の公募より、従来の E メールでの申請からオンライン申請に移行した。申請フォームは LaTeX ファイルをベースとしており、Web フォームで各項目を入力した後 ProMS 側でコンパイルする。また、申請者があらかじめ作成した LaTeX ファイルを Web にアップロードし、内容確認後に投稿することも可能となっている。ProMS では、ユーザが過去に投稿した提案書の内容をデータベースにて管理することで、過去の申請内容を下書きとして読み出したり、作成途中の内容を一時的に保存しておく機能を実装している。Semester 2016B の公募より、Hyper Suprime-Cam の Queue 観測と Filler 観測に対応したフォームを追加し、現在 Normal/Intensive プログラム (Gemini 望遠鏡や Keck 望遠鏡との時間交換プログラムを含む) として 6 種類のフォーム、Service/Filler プログラムとして 2 種類のフォームを用意している。

ProMS はハワイ観測所の観測プログラム管理システム OPAL や観測データ提供システム STARS と連携し、提案書の採択結果発表後に速やかに観測情報を共有するツールを備えている。Semester 2020A の公募から、提案書の審査システム PRORES が稼働し、ProMS で管理する情報の共有を主とした連携が始まっている。さらに Semester 2020B では、ProMS 上に審査結果を管理する機能を組み込むことを予定している。

本講演では ProMS の概要とこれまでの開発状況を報告するとともに、今後実装を予定している機能についても紹介する。